



日仏交流回顧

小樽商科大学言語センター 教授 江口 修

小樽商大に勤めてすでに30年超。駅前から港へと通じる大通りが広びろと整備されたことを除けば大学までの道すがらの光景はほとんど変わっていない。ただ街の活気は確実に衰えてきているし、その中身も大きく変わったような気がする。そのことを日仏交流の観点からすこし見てみたい。

拙生現在札幌日仏協会の理事長を務めさせていただいているが、この協会がなぜ北海道日仏協会を名乗らないのかには訳がある。一つは先輩格に函館日仏協会が存在し、そしてかつて一度北海道日仏協会が存在したからである。私が赴任した当初この北海道日仏協会はまだ存在していたが、これを動かしていた商大の目黒土門先生が去られたあと自然消滅した。それから間もなくして今井道雄氏を会長に同様の組織を立ち上げるようになったが、当然ながらかつてあった北海道日仏協会とは違うことを名前からして明示するべきだという意見が賛同を得て、札幌圏を中心に広く全道の協会の趣旨に賛同していただける方々を糾合する組織として発足した。今から思えばバブルの絶頂期に地元財界の雄、丸井今井を中心に今はなき北海道拓殖銀行など錚々たる法人会員のバックアップを得て順風満帆の船出をし、主たる目的の一つである、フランス政府公認の世界ネットワークに属するフランス語教育機関札幌アリアンス・フランセーズの経営基盤を築き上げることができた。小樽でも当時の丸井今井の勢いは皆様ご存知のとおりで、多喜二の勤めた旧拓銀小樽支店が美術館として再出発したときは小樽再生のモデルかとも期待されたのだが、バブル崩壊後の惨状は目を覆うばかりであった。

この札幌日仏協会に北海道日仏協会時代から引き続き一貫してご参加くださっているのが榊新宮商会会長の坂口榮之助氏である。氏

には現在協会の顧問をお願いしているが、在札幌フランス共和国名誉領事も務めていただき、また小樽商大の国際交流初期には研修留学生の受け入れなどで大変お世話になった。

さて氏のお人柄の一端を覗かせるエピソードをひとつ。氏の長年の功績にフランス共和国が報いない筈はなく、レジョン・ドヌール勲章を受勲されることになったのだが、ひっそりとアリアンス・フランセーズ札幌においてフランス大使館総領事から受け取られた。私も同席したのだが、「いやー、こんな照れることを皆さんの前で盛大にやることだけは勘弁だ」と笑いながらおっしゃっておられた。小樽の著名人でレジョン・ドヌール勲章を受けられたのは他では、故寿原九郎氏、同じく山本勉氏がいる。いずれも元北海道日仏協会への貢献が評価されたからであるが、札幌日仏協会には現在榊新宮商行以外、小樽からの法人会員参加が見られない。これは拙生の営業努力不足というか、目黒先生が持っておられた人間の大きさというか勢いを持たざるが故のことかと反省している。

フランス大使館からのお客さまを小樽にお連れすると、歴史の刻み込まれた街の雰囲気をととても喜んでくださる。日本の大都市の景観は規模の違いだけで似たようなものになりつつある。こんなときこそ小樽のような街の存在が日本の「深み」をいよいよ感じさせてくれるようになるのではないだろうか。これからは北海道における日仏交流支援を通じて小樽財界からレジョン・ドヌール受勲の榮譽を手にもされる方が出てきていただきたいと切に願いつつ拙稿を閉じることとしたい。札幌日仏協会に参加されんと思われる方、あるいはもっと詳しい話を所望される方はどうぞご連絡をお寄せ願いたい。